



目次

- 2 | 休日診療当番医
特集—被爆80年—
- 4 | 町からのお知らせ
- 11 | まちのわだい
- 12 | イクフレ
- 13 | 暮らしのガイド
- 19 | ふるさとふちゅう再発見
図書館からの今月読むならコレ！
- 20 | ふちゅうの宝みつけた！
府中町交通安全推進隊員インタビュー
広報紙配布のお詫びとお願い

広報ふちゅう6月号に誤りがありました。お詫びして訂正します。

◆ 18 ページ

「府中町に新しいスイーツを」

● (誤) セゾンドブロッサム

(正) セゾンドブロッサム

町の人口 (令和7年6月1日現在)

人口 51,959人

男 25,491人

女 26,468人

世帯数 23,947世帯

7月の休日診療当番医

7月6日 (日)	前野医院 (内科・呼吸器内科・感染症内科) 石井城2-10-20 ☎281-2334
7月13日 (日)	むかいなだ耳鼻咽喉科・アレルギー科 (耳鼻咽喉科・アレルギー科) 桃山1-4-18 ☎581-8733
7月20日 (日)	おかざき脳神経クリニック (脳神経外科・神経内科) 桃山1-4-18 ☎581-1001
7月21日 (月・祝)	向洋駅前診療クリニック(心療内科) 青崎中24-26 6階 ☎286-2335
7月27日 (日)	唐崎耳鼻咽喉科(耳鼻咽喉科) 宮の町2-5-31 ☎284-0333
8月3日 (日)	しみずハート内科クリニック(内科・循環器内科) 大須3-8-56 ☎283-8010
8月10日 (日)	行徳皮膚科アレルギー科(皮膚科・アレルギー科) 青崎中24-26 5階 ☎287-1560

町HPは
こちら▶



被爆80年の節目となる年に、改めて原爆の悲惨さと平和の大切さを感じ、広島で生きる私たちに今何ができるのか、一人ひとりが考えてみましょう。



●府中町原爆死没者の慰霊式・平和祈念式

時 8月6日(水) 午前8時～ 所 慰霊碑前(役場前河川敷)

※当日午前8時15分をはじめ、8月9日(土)午前11時2分、8月15日(金)正午にも黙とうをささげるためのサイレンを鳴らします。

●感じて、考えて、つなげよう 平和の願いをつなぐ一日

みんなで平和を考える場として、8月2日(土)に府中公民館でイベントを行います。館内では平和の展示や折り鶴体験も行っていますので、ぜひご覧ください。

【平和を広めるおはなし会】

時 ①午後1時30分～2時30分 ②午後6時～6時30分

内 絵本、平和紙芝居、原爆詩の朗読など

講 恵村 栄子 さん、中村 由利江 さん、中村 竜也 さん

問 府中公民館 (☎286-3276)

【府中町平和標語コンクール表彰式】

時 午後6時30分～7時 問 総務課 (☎286-3131)

【広島交響楽団 追悼コンサート】(弦楽五重奏)

時 午後7時～8時 出演 岩下 恵美 さん、川畑 美津代 さん、
青野 亜紀乃 さん、清水 博之 さん、池田 尚輝 さん



問 社会教育課 (☎286-3272)

●府中町ゆかりの原爆資料展「未来へつなごう この思い」

問 総務課 (☎286-3131) ※各施設の開館日・時間による

①くすのきプラザ 7月6日(日)～10日(木) ※最終日は午後3時まで

②マイ・フローラ南交流センター 7月11日(金)～21日(月・祝)

③府中町役場 7月23日(水)～8月15日(金)

④府中公民館 8月2日(土)

●展示 平和の小部屋「世界とヒロシマと禎子ちゃん」

問 府中公民館 (☎286-3276)

時 8月1日(金)～31日(日) 午前9時～午後5時 (休)月

所 歴史民俗資料館

●原爆詩の朗読会と家族伝承講話 問 南公民館 (☎286-3277)

時 7月26日(土) 午後1時30分～3時 所 南公民館 ホール

内 原爆詩の朗読(朗読の会「藍」新田 弘子さん、町内小学生のみなさん)、家族伝承講話(広島平和文化センター家族伝承者 永井 幸雄さん)

●平和を祈るおはなし会 問 図書館 (☎286-3405)

時 8月2日(土) 午前10時～11時30分 所 くすのきプラザ ギャラリー

講 読み聞かせボランティア、安芸府中高校



平和紙芝居を読み続けて25年 今、次世代につなげるとき

中村 由利江 さん・中村 竜也 さんインタビュー

幼少期の記憶から平和紙芝居へ（中村 由利江 さん）

被爆した両親は戦争で辛い思いをしました。身重だった母はピカドンで吹き飛ばされてから、雷が怖くなったと言っていました。父は兵隊として、戦地で撃たれ喉に穴が空き、うまく声を出せませんでした。父は大変な思いをしたから「生きてるだけでいいじゃ」とよく言っていました。

私の紙芝居のルーツは5歳の頃。昭和30年頃、戦後でテレビもない時代よね。読み聞かせが上手な紙芝居のおっちゃんが駄菓子売りに来た。駄菓子を買って、ワクワクしながら『月光仮面』とか観ていた。

大人になり結婚して、子育てが終わったら、地域活動を始めました。府中公民館に声をかけてもらい出入りしていると、事務室のロッカーに紙芝居がずらっとあって、読み聞かせを始めました。45歳ぐらいから本格的に紙芝居をするようになりました。格好を選ぶのが楽になるとひらめいたのが、「おっちゃん」になること。会場に向かう車の中でハンチング帽を被ると紙芝居のスイッチが入ったものです。

ちょうど50歳のとき、主人を肺がんで亡くしました。8月6日が結婚記念日だったこともあり、平和紙芝居を府中公民館からお借りして、平和祈念公園に行ったんです。小さい頃に観たように自転車にのぼりを立てて、お礼や祈りの気持ちを込めて紙芝居を読んでみました。この活動を10年続けたら、平和の大事さを伝えるため、広島市から呼ばれるようになりました。それから緑ヶ丘中学校、府中中学校、安芸府中高校とも活動するようになり、活動も満25年。

今年、息子が北小学校で平和紙芝居を読んでもらいました。伝え方は変わってもいい。とにかく次

世代にそれを残していくことが大事だと思っています。

紙芝居は読む人がいてこそ（中村 竜也 さん）

25年間、母の活動を見ていて大事なことだとは感じていました。僕らの若い頃は平和学習を受けても「伝える」ということは教えてもらえませんでした。おじいちゃん、おばあちゃんが戦争で経験したことを伝えてくれたし、母の世代がしっかり受け継いでくれた。わざわざ僕らが動かなくてもよかったんですね。

ただ、そうした世代が高齢となり、母も今まで通りの活動が難しくなってきた、僕らの世代は何もやっていなかったんだなと実感しました。紙芝居は物として残すことはできるけど、やはり読み手がいて成り立つもの。紙芝居の需要はあまりないかもしれないけど、母の活動は残すべきだと思いました。僕が引き継いで、また誰かにバトンを渡せたらいいですね。

被爆者がいなくなる中、僕たちは直接話を聞ける最後の世代です。実体験を聞いて心が動いた私の感情を乗せて紙芝居を読むことで、子どもたちが真剣に聞いてくれて、心を動かせることもあるんだと思っています。

